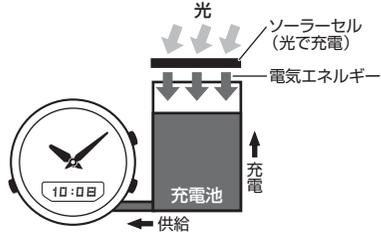


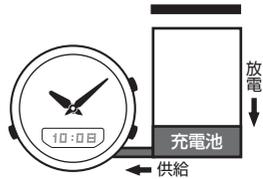
十分に光を当ててご使用ください

本機は、光で発電した電気を充電しながら使うようになっております。
安定してお使いいただくためには、本機のソーラーセルに光が当たるようにしてお使いください。

●光が当たっているときと当たらないとき
〈光が当たっているとき〉

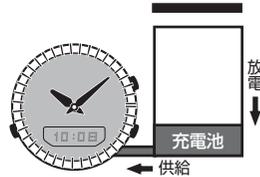


〈光が当たっていないとき〉



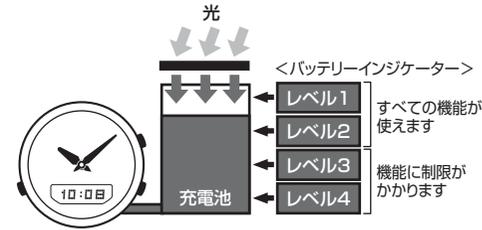
時計は光が当たらないときでも常に動いていますので、このままでは充電電池の容量が減って機能が使えなくなります。

●ライト（表示用照明）をたくさん使うと
ライトを多用すると充電電池の容量は早く減ります。

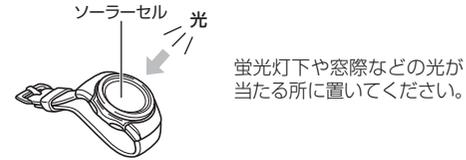


●時計に光が当たるようにしましょう

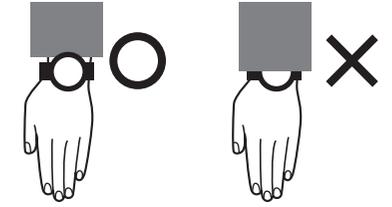
- 電池容量を示すバッテリーインジケーターがレベル3になると機能に制限がかかりますので、レベル1、レベル2を保つように光を当ててください。



- 腕から外したときは表示面（ソーラーセル）を明るい方に向けて置くなどして、充電を心掛けてください。



- 腕に付けているときはなるべく袖が表示面（ソーラーセル）にかからないように使用してください。



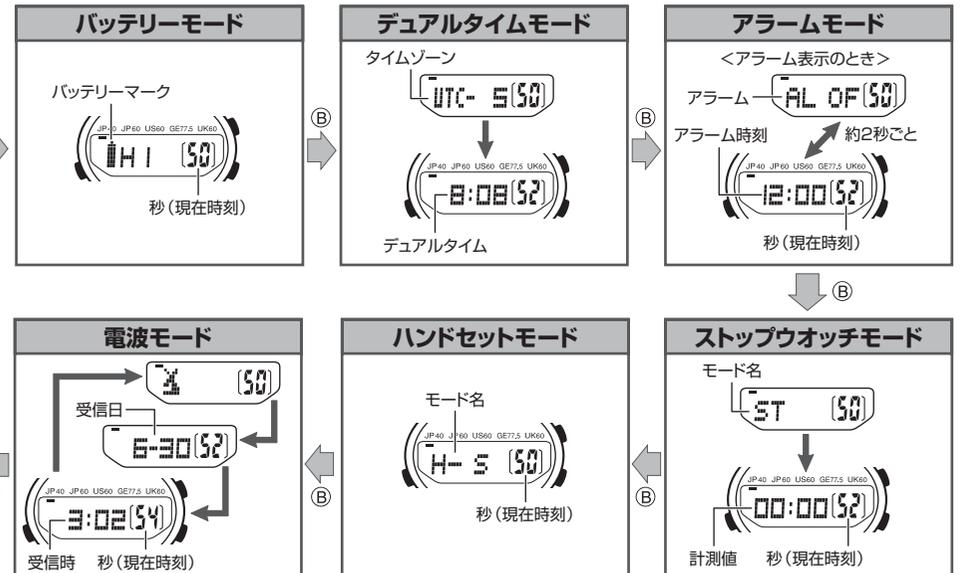
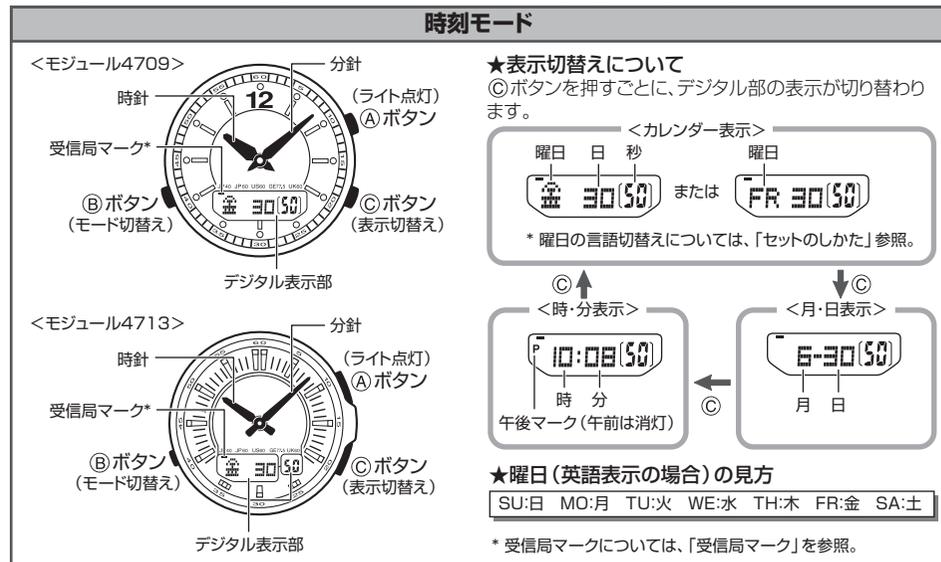
一部でも袖に隠れていると、充電効率が著しく低下します。

操作のしくみと表示の見方

※表示例では、アナログ（針）部を省略する場合があります。

Ⓑ ボタンを押すごとに確認音が鳴り、以下の順でモードが切り替わります。
※表示例はモジュール4709を使用しています。（モジュール番号は時計本体裏面に刻印されています。）

※バッテリーモード、アラームモード、ハンドセットモード、電波モードのまま2~3分すると、自動的に時刻モードに戻ります。



電源について

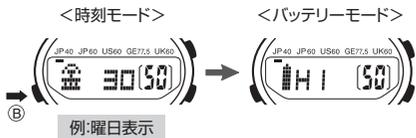
本機はソーラーセルで発電し、二次電池に充電しながら使うようになっております。
光が当たりにくい場所での保管および使用、長袖で本機が隠れたままの使用が長時間続きますと、二次電池が消耗して表示しなくなることがあります。
安定してご使用いただくために、なるべく光が当たるようにしてお使いください。

ご注意

二次電池が消耗して時計機能が停止すると(レベル5)、設定データは消去されます。

●電池残量の確認

二次電池の残量を確認するには、バッテリーモードに切り替えます。
※バッテリーモードに切り替えるには、時刻モードのときに **B** ボタンを1回押します。



レベル1		すべての機能が使用可能
レベル2		すべての機能が使用可能
レベル3		ライト点灯不可、アラーム・時報などの報音不可、電波受信不可
レベル4		時計・分針ともに12時位置で停止、液晶表示不可、ライト点灯不可、アラーム・時報などの報音不可、電波受信不可
レベル5		時計機能停止(時計発振不可)

※直射日光下などの強い光で充電した場合、二次電池の残量が一時的に実際の電池容量より高いレベルを表示することがあります。レベルは充電後しばらくしてから確認してください。

※レベル5になっても再度充電を行なうことで使用できます。

※レベル5から充電したときは、レベル4になると表示が点灯し、C (Charge) マークが点滅します。ただし、この状態では機能が使用できませんので、レベル2またはレベル1になるまで十分に光を当ててから、ご使用ください。

●充電必要サインについて

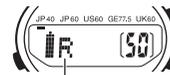
レベル3や4の状態は、電池残量が極端に少なくなっています。このときは、本機を光に当てて、十分に充電を行なってください。

●リカバー状態の場合

ライトやアラームなどを短時間に連続して使用し、電池に大きな負担がかかった場合、アナログ針は運針を停止し(バッテリーモードではリカバーマークを表示)、一時的に以下の操作ができなくなります。

- 運針
- ライトの点灯
- アラーム・時報などの報音
- 電波受信

<バッテリーモード>



リカバーマーク

このような場合は、時間がたてば電池電圧が復帰し、使用できるようになります。

●充電時のご注意

以下のような高温下での充電はお避けください。

- 炎天下に駐車中の車のダッシュボードの上
 - 白熱ランプなどの発熱体に極端に近い所
 - 直射日光が長く当たって、高温になる所
- なお、極端な高温下では液晶パネルが黒くなる場合がありますが、温度が下がれば正常に戻ります。

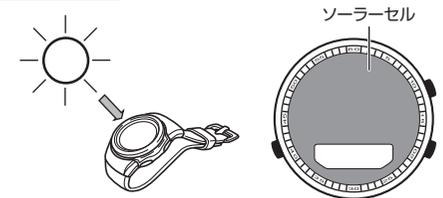


充電の際、光源の条件によっては時計本体が極端に高温になることがありますので、やけどなどをしないようにご注意ください。

●充電のしかた

本機のソーラーセル部分を光源に向けます。
※ソーラーセルの一部が隠れていると充電効率が下がりますのでご注意ください。

例) 時計の置き方



※イラストは樹脂バンドの場合です。

●充電の目安

本機は一度フル充電すると、充電しなくても基本動作*に加え、下記の条件で使用した場合に約6ヵ月動き続けます。

- 使用例
- ライト : 1.5 秒間/日
 - アラーム : 10 秒/日
 - 電波受信 : 6分/日

なお、こまめに充電を行えば、安定してご使用いただけます。

* 基本動作とは、時計内部の時刻演算処理と針の運針動作のことです。

●各レベルに回復するための充電時間

環境 (照度)	充電時間			
	レベル5 ⇒ レベル4	レベル3	レベル2	レベル1
晴れた日の屋外など (50,000ルクス)	約2時間	約24時間	約6時間	
晴れた日の窓際など (10,000ルクス)	約7時間	約89時間	約21時間	
曇り日の窓際など (5,000ルクス)	約10時間	約144時間	約33時間	
蛍光灯下の室内など (500ルクス)	約112時間	---	---	

※この充電時間は目安のため、実際の環境下においては充電時間が異なる場合があります。

〔1日動くのに必要な充電時間〕

※左記の条件で使用した場合

環境 (照度)	充電時間
晴れた日の屋外など (50,000ルクス)	約8分
晴れた日の窓際など (10,000ルクス)	約30分
曇り日の窓際など (5,000ルクス)	約48分
蛍光灯下の室内など (500ルクス)	約8時間

ライト点灯について

セット中 (表示点滅) 以外のどのモードのときでも、**A** ボタンを押すとライトが約1.5秒間点灯し、暗いところでもデジタル部の表示を見ることが出来ます。

<モジュール4709>*



<モジュール4713>*



* モジュール番号は時計本体裏面に刻印されています。

※モードによっては、**A** ボタンを押し続けるとセット状態 (表示が点滅) になりますので、ご注意ください。セット状態を抜きたいときは、もう一度 **A** ボタンを押します。

※直射日光下ではライト点灯が見えにくくなります。
※ライト点灯中にアラームなどが鳴り出すと点灯を中断します。

※手動受信中はライトは点灯しません。

パワーセービング機能について

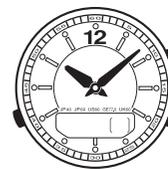
本機は「パワーセービング機能」を備えています。

※パワーセービング機能とは、暗いところに放置すると自動的に液晶表示を消してスリープ状態にし、節電する機能です。
※時計が袖などで隠れている場合でも、表示が消えることがあります。

●スリープ状態になるには

- 表示スリープ
暗いところで本機を3~4日間放置します。
→液晶表示が消えます。
アラーム・時報の報音は行ないます。
アナログ針は運針を継続し、自動受信も行ないます。

<表示スリープ>



●機能スリープ

- 表示スリープのまま暗いところで4日間経過します。
→アラーム・時報の報音は行ないません。
アナログ針は運針を停止し、自動受信も行ないません。
※時計機能は正常に作動しています。

電波時計について

電波時計とは

正確な時刻情報をのせた長波標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。



電波時計は正確な標準時を受信していますが、時計内部の時刻演算処理等により、時刻表示に1秒未満のズレが生じます。

標準電波

- 日本の標準電波 (JJY) は独立行政法人情報通信研究機構 (NICT) が運用しており、福島県の「おおたかどや山 (40kHz)」および佐賀県と福岡県の境にある「はがね山 (60kHz)」から送信されています。
- アメリカの標準電波 (WWVB) はNational Institute of Standards and Technology (NIST) が運用しており、コロラド州にあるフォートコリンスから送信されています。
- イギリスの標準電波 (MSF) はNational Physical Laboratory (NPL) が運用しており、イングランド北部のアンソーンから送信されています。
- ドイツの標準電波 (DCF77) はPhysikalisch-Technische Bundesanstalt (PTB) が運用しており、フランクフルト南東に位置するマインフリンゲンから送信されています。

日本の正確な時刻情報をのせた標準電波は独立行政法人情報通信研究機構 (NICT) 日本標準時グループが運用しております。
この標準電波はほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることがあります。
詳しい情報は独立行政法人情報通信研究機構 (NICT) 日本標準時プロジェクトのホームページをご覧ください。

<http://jyy.nict.go.jp>

※ホームページのアドレスは変更になる場合があります。

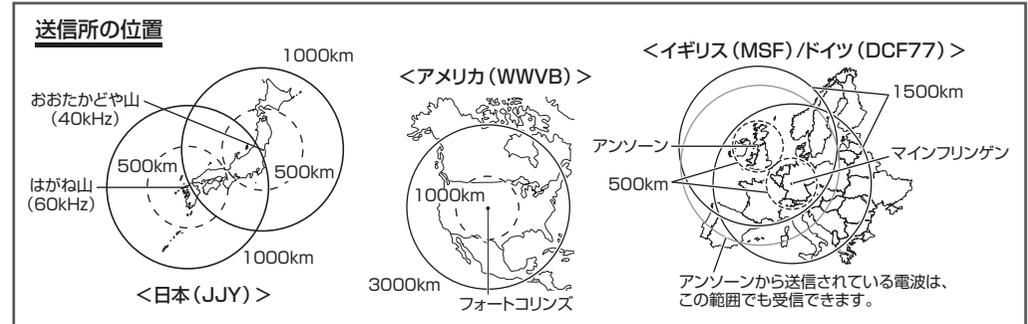
電波の受信範囲の目安

本機は、ホームタイムゾーンを下記のように設定すると、そのゾーンに対応した標準電波を受信します。

* ホームタイムゾーンの設定については「セットのしかた」参照。

ホームタイムゾーン (受信機能対応ゾーン)	受信電波
UTC+9、+8	日本の標準電波 (JJY)
UTC-10 ~ -5	アメリカの標準電波 (WWVB)
UTC+0 ~ +2	イギリスの標準電波 (MSF)、ドイツの標準電波 (DCF77)

※UTC + 8、- 10、- 9 の各ゾーンは、受信機能対応ゾーンとしています。条件が良ければ受信する場合があります。



●受信環境により、図の範囲以内でも電波を受信できない場合があります。内側の円の範囲を超えると電波が弱くなりますので、受信の影響はより大きくなります。

※受信に影響を与える環境・・・地形、建物、天気、季節、時間帯 (昼・夜)、各種ノイズ

使用場所について

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。



ビルの中およびその周辺 (ビルの谷間など)



高圧線、架線の近く



乗り物の中 (自動車、電車、飛行機など)



家庭電化製品、OA機器のそば (テレビ、スピーカー、FAX、パソコン、携帯電話など)



電波障害の起きるところ (工事現場、空港のそばなど)



山の裏側・・・など

受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

受信方法について

受信方法には、以下の2種類があります。

- 1 自動受信 1日最大6回 (午前12・1・2・3・4・5時に自動受信します)
- 2 手動受信 (ボタンを押して手動受信します)

※1日1回受信が成功すれば、その日の自動受信は行ないません。

※工場出荷時には、自動受信を行なうようにセットされていますので、電波を受けるのに適した環境であれば、自動的に受信を行ない、正確な時刻を保ちます。

ただし、UTC + 8、- 10、- 9 の各ゾーンは自動受信の設定がOFFにセットされています。

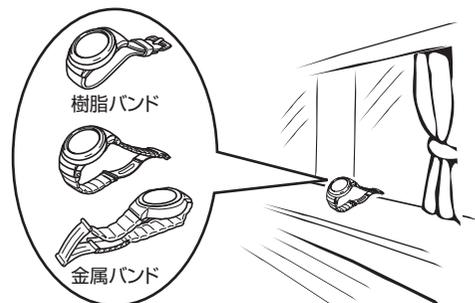
* 自動受信 ON / OFF の設定については「自動受信 ON / OFF の設定」を参照。

※設定したホームタイムゾーンやサマータイム設定によって、自動受信の開始時刻が異なります。

ホームタイムゾーン		自動受信開始時刻					
		1	2	3	4	5	6
UTC+8、+9	通常時刻	午前12時	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時
UTC-10~-5	通常時刻	午前12時	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時
UTC+0	サマータイム	午前12時	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時
	通常時刻	午前1時	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時
UTC+1	サマータイム	午前2時	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時
	通常時刻	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時
UTC+2	サマータイム	午前3時	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時
	通常時刻	午前4時	午前5時	翌日午前12時	翌日午前1時	翌日午前2時	翌日午前3時

●受信しやすくするために

本機を腕からはずし、金属をさけて下図のように時計上部(12時位置のアンテナ)を外に向けて窓際に置いてください。



- 時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。
- 受信中、時計を動かさないようにしてください。

●受信時間は？

受信時間はおよそ2～7分です。
※ただし、周波数を変えて再受信するため、最大14分かかる場合があります。
* 自動受信 ON / OFF の設定については「自動受信 ON / OFF の設定」参照。

●手動受信

時刻モードまたは電波モードのとき

◎ ボタンを約2秒間押し続けます

→ “RC” が表示され、受信を開始します。
※受信中は、受信インジケータ(「受信インジケータ」参照)が変化し、受信している電波の受信局マーク(「受信局マーク」参照)が点滅します。



★受信を中止するときは

◎ ボタンを押します

※手動受信中は◎ボタン以外の操作はできません。

★受信が成功すると

成功した時点で受信を終了し、時刻を修正後、修正日時を表示します。

※修正日時表示後は、◎ボタンを押すか、1～2分間放置すると時刻モードの表示に戻ります。

★受信が失敗すると (ERR 表示)

時刻修正は行なわれず、“ERR”を表示します。

※“ERR”表示後は、◎ボタンを押すか、1～2分間放置すると時刻モードの表示に戻ります。

●受信インジケータ

受信中は受信状態によって受信インジケータが変化します。安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。



※受信しやすい場所でも、安定するまで約10秒ほどかかります。

- 受信インジケータは、受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。
- 天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

●受信局マーク

受信中は受信している電波の受信局マークが点滅します。

※受信成功後は受信した電波の受信局マークが点灯します。受信局マークは、翌日の自動受信開始時刻の第1回目(「受信方法について」参照)に消えます。



- JP40 … 日本の標準電波 (40kHz)
- JP60 … 日本の標準電波 (60kHz)
- US60 … アメリカの標準電波
- GE77.5 … ドイツの標準電波
- UK60 … イギリスの標準電波

●受信日時の確認

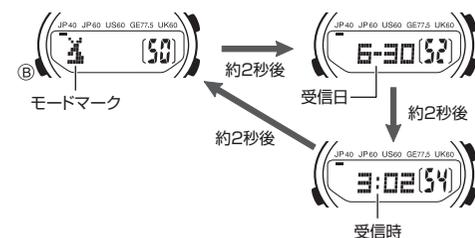
時刻モードのときにⒷボタンを6回押して、電波モードにします。

→受信により最後に修正した月日と時分、モードマークを表示します。

※月日と時分、モードマークは2秒ごとに切り替わって表示されます。

※一度も受信に成功しなかったときは、“— — —”を表示します。

※時刻モードに戻すには、もう一度Ⓑボタンを押します。※何も操作をしないと、1～2分後時刻モードに戻ります。



■自動受信 ON / OFF の設定

自動受信をOFFにすると、電波の自動受信をさせなくすることができます。

※ホームタイムゾーンを受信機能対応ゾーンに設定していると、自動受信 ON / OFF の設定を行なうことができます。

* 受信機能対応ゾーンについては、「電波の受信範囲の目安」参照。

1. セット状態にする

電波モードのとき

Ⓐ ボタンを約3秒間押し続けます

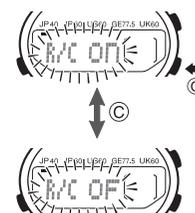
→ “R/C On” または “R/C Off” が点滅します。



2. セットする

◎ ボタンを押します

→ “On” (ON) と “Off” (OFF) が切り替わります。



3. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

→ 点滅が止まり、受信日時表示に戻ります。

※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。



★自動受信を ON にすると…

●ホームタイムゾーンが UTC + 9、+ 8 の場合
自動受信は ON になり、「おおたかどや山 (40kHz)」と「はがね山 (60kHz)」からの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます (自動選局)。
※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。

●ホームタイムゾーンが UTC - 10 ~ - 5 の場合
自動受信は ON になり、アメリカのフォートコリンズからの電波を受信します。

●ホームタイムゾーンが UTC + 0 ~ + 2 の場合
自動受信は ON になり、イギリスのアンソーンとドイツのマインフリンゲンからの電波のうち、受信しやすい方を自動的に選びます (自動選局)。
※前回受信に成功した方の電波を優先的に受信します。

■受信に関するご注意

- 自動受信は時刻モードとデュアルタイムモードでのみ行なわれます。
- 以下のときは、電波受信を行ないません。
 - ・バッテリーレベルが 3 ~ 5 のとき。
 - ・リカバリー状態のとき (「リカバリー状態の場合」)。
- 電波を受信するとデジタル部が先に修正され、それに連動してアナログ部 (針) が修正されます。アナログ部が正しい時刻を示すためには電波受信前に必ずデジタル部とアナログ部の時刻を合わせてください。
- 自動受信中にボタン操作を行なうと、受信を中断します。
- 受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯 (昼・夜) などによってうまく受信できないことがあります。
- 電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。
- 本機は日本、アメリカ、イギリス、ドイツで送信されている電波に合わせて設定されていますので、電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。
- 電波受信を行なわないときは、平均月差 ± 20 秒以内の精度範囲で動きます。
- 極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。
- 受信中にアラームが鳴ると、受信を中断します。

■こんなときには

1. 電波が受信できないのですが？

- 電波の送信が中断していませんか。
電波時計が利用している標準電波 (JJY) は、独立行政法人情報通信研究機構 (NICT) により運営されておりますが、保守作業や雷対策等で一時的に送信が中断されることがあります。
- 電波が受信できない地域にいませんか。
電波受信ができる地域は、「電波の受信範囲の目安」をご覧ください。
- 電波受信環境が悪い場所にいませんか。
電波受信できる地域であっても電波が遮断されたり、発生するノイズにより受信しにくくなります。受信はこのような場所を避けて行なってください (「使用場所について」参照)。
- ホームタイムゾーンが間違っていて設定されていませんか。
ホームタイムゾーンの設定が「電波の受信範囲の目安」に記載されているゾーン以外の場合は、電波受信を行ないません。「セットのしかた」をご覧ください、ホームタイムゾーンを正しく設定してください。
- 自動受信設定が OFF になっていませんか。
「自動受信 ON / OFF の設定」をご覧ください、自動受信設定を ON に設定してください。

- 自動受信を行なう時間帯 (午前 12・1・2・3・4・5 時) に、時刻モードまたはデュアルタイムモード以外になっていませんか。
自動受信は時刻モードまたはデュアルタイムモードでしか行なわれませんので、自動受信時間帯は他のモードに切り替えしないでください。

2. 電波を受信したのに、時報と時計の表示が若干ずれるのですが？

- 電波時計は標準電波を受信して時刻修正を行ないませんが、時計内部の演算処理等により若干 (1 秒未満) のずれが発生します。

3. 電波を受信したのに、時刻がちょうど 1 時間進んでいるのですが？

- サマータイムの設定が ON になっていませんか。「セットのしかた」をご覧ください、サマータイムの設定を OFF または AUTO にしてください。

4. 電波を受信したのに、時刻がくるっているのですが？

- ホームタイムゾーンの設定が日本 (UTC + 9) ではなく、外国都市に設定されていませんか。「セットのしかた」をご覧ください、ホームタイムゾーンを正しく設定してください。

5. デジタル部とアナログ部の時刻が合わないのですが？

- 電波を受信するとデジタル部が先に修正され、デジタル部の時刻を進めた (戻した) 分だけ、アナログ部も修正されます。針位置がずれていると電波受信しても正しい時刻を示しませんので、「アナログ部 (針) の合わせ方」をご覧ください、アナログ部をデジタル部の時刻に合わせてください。

6. 自動受信 ON / OFF の設定ができないのですが？

- ホームタイムゾーンの設定が「電波の受信範囲の目安」に記載されているゾーン以外の場合は、自動受信 ON / OFF の設定を行なうことができません。「セットのしかた」をご覧ください、ホームタイムゾーンを正しく設定してください。

7. 自動受信は何時頃行なわれるのですか？

- 自動受信は電波状況の良い夜間に行なわれます。夜間にお休みのときは、電波送信所方向の窓際に時計の 12 時位置 (受信アンテナ部) を外に向けて置いてください。

8. 手動受信のしかたは？

- 時刻モードまたは電波モードのときに ボタン (右下) を約 2 秒間押し続けます。「RC」が表示され手動受信が開始されますので、電波送信所方向の窓際に時計の 12 時位置 (受信アンテナ部) を外に向けて置いてください。

9. 受信日時の確認のしかたは？

- 電波モードで確認します。受信が成功して、時刻修正された月日と時分、モードマークが 2 秒ごとに切り替わって表示されます。

- ★電波受信ができないときや受信しても時刻が合わないときなどは、設定を確認してください。
※本機は工場出荷時および電池交換後には、以下の内容でセットされています。

自動受信		自動受信する
ホームタイムゾーン	UTC+ 9	日本 (UTC+9)
サマータイム		電波受信による自動切替え

アラーム・時報の使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたい **ⓐ** ボタンを押し、アラームモードにします。

アラームは分単位でセットでき、セット時刻になると10秒間電子音が鳴ります。また、毎正時(00分)に“ピッピッ”と電子音で時報を鳴らすことができます。

■アラームのセット

1. アラームを選ぶ

アラームモードのとき

ⓐ ボタンを押します

→ ⓐ ボタンを押すごとにアラームと時報が切り替わります。アラームを表示させます。



2. セット状態にする

ⓐ ボタンを約3秒間押し続けます

→ 「時」が点滅します。
※自動的にアラームがONになります。



3. セット箇所を選ぶ

ⓑ ボタンを押します

→ ⓑ ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。セットしたい箇所を点滅させます。

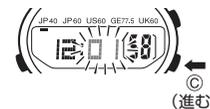


4. 点滅箇所をセットする

★「時」「分」セットのときは…

ⓐ ボタンを押します

→ ⓐ ボタンを押すごとに1つずつ進みます。
※押し続けると早送りができます。



★「アラーム ON / OFF」設定のときは…

ⓐ ボタンを押します

→ ⓐ ボタンを押すごとに“On” (ON) と “Off” (OFF) が切り替わります。



5. セットを終わる

ⓐ ボタンを押します

→ 点滅が止まり、セット完了です。
※点滅表示のまま2~3分間すると、自動的に点滅が止まります。

■ 鳴っている電子音を止めるには
いずれかのボタンを押すと、音が止まります。

■ モニターアラーム

アラームモードで ⓐ ボタンを押し続けると、押し続けている間、電子音が鳴ります。

■ 時報の ON / OFF 設定

1. 時報を選ぶ

アラームモードのとき

ⓐ ボタンを押します

→ ⓐ ボタンを押すごとにアラームと時報が切り替わります。時報を表示させます。



2. セット状態にする

ⓐ ボタンを約3秒間押し続けます

→ “SIG On” が点滅します。
※自動的に時報がONになります。



3. ON / OFF を切り替える

ⓐ ボタンを押します

→ ⓐ ボタンを押すごとに“On” (ON) と “Off” (OFF) が切り替わります。



4. セットを終わる

ⓐ ボタンを押します

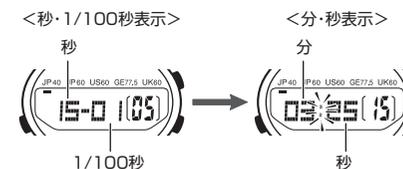
→ 点滅が止まり、セット完了です。
※点滅表示のまま2~3分間すると、自動的に点滅が止まります。

ストップウォッチの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたい **ⓐ** ボタンを押し、ストップウォッチモードにします。

● 表示について

・計測中の表示
計測開始時は「秒・1/100秒」を表示しますが、1分を越えると自動的に「分・秒」表示に切り替わります。



・計測停止中の表示
「分・秒」表示と「1/100秒」表示が1秒ごとに切り替わって表示されます。



■ 計測のしかた

ストップウォッチモードのとき

ⓐ ボタンを押します

→ ⓐ ボタンを押すごとに、計測がスタート/ストップします。



※計測中または計測終了後に ⓐ ボタンを約1秒間押し続けると、計測値が0に戻ります (リセット)。

計測の流れ



<積算計測>

ロスタイムのあるときは、ストップ後リセットせずに ⓐ ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

デュアルタイムの使い方

「操作のしくみと表示の見方」にしたがいⓐ ボタンを押し、デュアルタイムモードにします。

デュアルタイムモードでは、世界 29 タイムゾーンの時刻を簡単に知ることができます。

※デュアルタイムモードに切り替えると、前回このモードで最後に見たタイムゾーンの時刻を表示します。

■ご注意

デュアルタイムが合っていないときは、時刻モードの時刻およびホームタイムゾーン設定を確認し、違っているときは正しくセットしてください。

* セットについては、「セットのしかた」参照。

■デュアルタイムのサーチ

1. タイムゾーンを表示させる

デュアルタイムモード（時刻表示）のとき

ⓐ ボタンを押します

→表示されていた時刻のタイムゾーンを約 2 秒間表示します。



2. タイムゾーンをサーチする

タイムゾーンが表示されているとき

ⓐ ボタンを押します

→ⓐ ボタンを押すごとにタイムゾーンが進みます。タイムゾーンを表示後、そのタイムゾーンの時刻を表示します。
※押し続けると早送りします。



ホームタイムデータ(時刻・カレンダー)の合わせ方

ホームタイムデータのセットとは、お使いになる地域(タイムゾーン)や時刻・カレンダー等を合わせることです。
※ホームタイムデータのセットや修正は時刻モードで行ないます。

デジタル部とアナログ部の時刻を同時に修正するときは、デジタル部の時刻を先に修正してください。

■セットのしかた

1. セット状態にする

時刻モードのとき

ⓐ ボタンを約 3 秒間押し続けます

→タイムゾーンが点滅します。

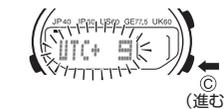


2. ホームタイムゾーンを選ぶ

ⓐ ボタンを押します

→ⓐ ボタンを押すごとにタイムゾーンが進みます。本機をお使いになる地域(タイムゾーン)を選びます。

* 「タイムゾーン一覧」参照。
※押し続けると早送りします。



3. 「サマータイム切替え」にする

ⓐ ボタンを押します

→サマータイムの切替えになります。



■サマータイム (DST) について

サマータイムとは DST (Daylight Saving Time) とも言い、通常の時刻から 1 時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は国や地域により異なりますし、採用していないところもありますのでご注意ください。

■サマータイムの ON/OFF 設定

準備: デュアルタイムモードのとき、ⓐ ボタンを押し、設定したいタイムゾーンを選びます。

ⓐ ボタンを約 3 秒間押し続けます

→ⓐ ボタンを約 3 秒間押し続けるごとにサマータイムの ON/OFF が切り替わります。



※サマータイムが ON のときは、DST マークが点灯して、通常の時刻より 1 時間進みます。(タイムゾーンの時差も 1 時間進みます。)

※各タイムゾーンごとにサマータイムを設定することができます。ただし、「UTC」とホームタイムで設定しているタイムゾーンを表示しているときはサマータイムの設定はできません。

■タイムゾーン一覧

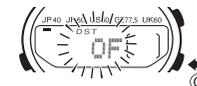
タイムゾーン	時差	都市名	タイムゾーン	時差	都市名
UTC -11	-11		UTC +3	+3	ジェッジ
UTC -10	-10	ホノルル	UTC +3.5	+3.5	テヘラン
UTC -9	-9	アンカレジ	UTC +4	+4	ドバイ
UTC -8	-8	ロサンゼルス	UTC +4.5	+4.5	カブール
UTC -7	-7	デンバー	UTC +5	+5	カラチ
UTC -6	-6	シカゴ	UTC +5.5	+5.5	デリー
UTC -5	-5	ニューヨーク	UTC +6	+6	ダッカ
UTC -4	-4	サンティアゴ	UTC +6.5	+6.5	ヤンゴン
UTC -3	-3	リオデジャネイロ	UTC +7	+7	バンコク
UTC -2	-2		UTC +8	+8	香港
UTC -1	-1		UTC +9	+9	東京
UTC 0	0	<グリニッジ標準時>	UTC +9.5	+9.5	アデレード
UTC +0	0	ロンドン	UTC +10	+10	シドニー
UTC +1	+1	パリ	UTC +11	+11	ヌーメア
UTC +2	+2	アテネ	UTC +12	+12	ウェリントン

※この表は 2008 年 6 月現在作成のもので、
※この表の時差は協定世界時(UTC)を基準としたものです。

4. 切り替える

ⓐ ボタンを押します

→ⓐ ボタンを押すごとにサマータイムの設定が切り替わります。



● A (AUTO)
電波受信により、自動的にサマータイムの ON/OFF が切り替わります。

● OF (OFF)
サマータイムは OFF になります (通常時間)。

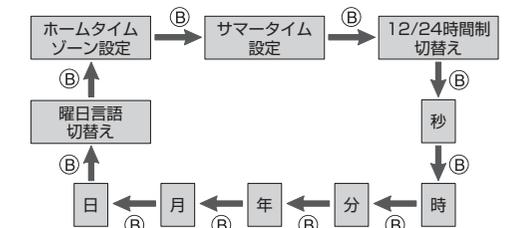
● On (ON)
サマータイムは ON になります (夏時間)。
※セット完了後、DST マークが点灯して、通常の時刻より 1 時間進みます。

※ホームタイムゾーンが受信機能対応ゾーン(「電波の受信範囲の目安」参照)以外の時は、「OF (OFF)」⇔「On (ON)」で表示が切り替わります。

5. セット箇所を選ぶ

ⓐ ボタンを押します

→ⓐ ボタンを押すごとに以下の順で点滅箇所が移動しますので、設定したい箇所を点滅させます。



6. 点滅箇所をセットする

Ⓒ ボタンを押します

⇒ Ⓒ ボタンで点滅箇所をセットします。

a. 「12/24時間制切替え」のとき

Ⓒ ボタンを押すごとに12時間制表示「12H」と24時間制表示「24H」が切り替わります。



b. 「秒」セットのとき

Ⓒ ボタンを押すと「00秒」からスタートします。

※秒が00～29のときは切り捨てられ、30～59のときは1分繰り上がって「00秒」になります。(時報は「時報サービス117番」が便利です)



c. 「時」「分」「年」「月」「日」セットのとき

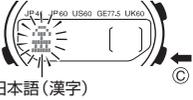
Ⓒ ボタンを押すごとに点滅箇所の数字が進みます。

※押し続けると早送りができます。



d. 「曜日言語切替え」のとき

Ⓒ ボタンを押すごとに日本語(漢字)表示と英語表示が切り替わります。



Ⓑ ボタンを押して点滅箇所を移動させ、Ⓒ ボタンを押してセットする操作を繰り返して、時刻・カレンダーを合わせます。

※「時」のセットのとき午前/午後(P), または24時間制にご注意ください。

※「年」は2000年～2099年の範囲内でセットできます。正しくセットすると、自動的に曜日が算出されます。

※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーです。

7. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

⇒点滅が止まり、セット完了です。

※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。

<シンクロ機能>

デジタル部の時刻修正後、アナログ部(針)も連動して修正されます。

※針の修正は、デジタル部の修正に合わせて送り(正転方向)または戻し(逆転方向)されます。

※針の修正は、デジタル部の修正時刻によって時間がかかることがあります。

■アナログ部(針)の合わせ方

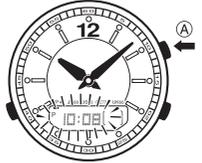
アナログ部の時刻とデジタル部の時刻が合っていないときは、ハンドセットモードで合わせてください。

1. セット状態にする

ハンドセットモードのとき

Ⓐ ボタンを約3秒間押し続けます

⇒現在時刻が点滅して、セット状態になります。



2. 時・分針を合わせる

Ⓒ ボタンを押します

⇒Ⓒ ボタンを押すごとに時計回りに1/6分(10秒)ずつ進みますので、デジタル部の「時・分」丁度に時分針を合わせます。

※押し続けると早送りします。

※針は逆方向には進みません。

<針の自動早送り>

- Ⓒ ボタンを押し続けて早送り中にⒷ ボタンを押すと、ボタンから手を離しても針が進み続けます。
- 自動早送りは時針が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。

3. セットを終わる

Ⓐ ボタンを押します

⇒点滅が止まり、分針はそのときの「秒」に合わせて自動的に修正されます。

※点滅表示のまま2～3分間すると、自動的に点滅が止まります。